

2021年4月

公益財団法人 京都服飾文化研究財団 (KCI)

「This is not a cat. : 夜の動物園」展のお知らせ

KCI ギャラリーでは高島一精 (たかしま かずあき) の個展

「This is not a cat. : 夜の動物園」を開催中です。

高島は、黒猫のキャラクター「にゃー」で知られるブランド「Né-net」のデザインを手がけていた2019年、イラストを中心とした個展「This is not a cat.」を開催しました。ファッション・デザインを本業としてきた高島が、ゆっくりとしたスパンで取り組むもうひとつの活動として始めた架空の動物たちのイラスト制作。そのひとつ「もじゃ」は一見「にゃー」のような猫に見えますが猫ではないし、描く姿勢も異なります、という彼の説明が、そのまま展覧会名となりました。独立後の2020年に開催した同名の個展では、布をキャンバスと捉えた、いわばウェアラブルなイラスト作品である「TIE」を発表し、再びファッション・デザインに接近。さらに熊の「マロン」をはじめとした新たなキャラクターを発表し、顧客とInstagramを通して対話しながら私たちの日常に向けた服や小物を受注生産するなど、高島は既存のファッションの枠組みとは距離をとりつつ、服を着る人たちとのつながりを重視しながら活動の幅をひろげています。今では「This is not a cat.」は、彼の一連の活動を示すフレーズとなりました。

本展はこうした高島の作品を展示する、関西では初の機会となります。過去の個展では明るい空間を選んできた高島は作品保護のためにいつも薄暗いこのギャラリーを訪れ、「くらい空間の中にあの黒いなんの動物かわからない動物がたくさん」いて、彼らが檻から抜け出すイメージを想像しました。囲いからこっそりと脱走する不思議な動物たちは、コロナ禍、自由に外出できない私たちの願望を託したファンタジーのようにも見え、その微笑ましい姿に私たちの頬や肩は自然と緩みそうです。

高島は「妄想」を創造の重要な過程と考えてきました。「そこになんのルールもなく、自分の中で勝手に想像して、それを形にしていく」。こうした高島の自由な思考や自然体の姿勢から生み出されるユーモアに溢れた作品に私たちは共感し、思わず微笑んでしまうのでしょうか。そんな「ちょっと何か“通じ合えた”時のにっこり」が、明日を見通しにくい現在の状況でも高島を動かし続けています。

「想像から生まれる創造は、時に今までの常識や枠組みをひょいっと飛び越えて、新しい発見ができる自由さがあって、それが楽しい！」高島一精

「This is not a cat.」展の第三弾となる本展では、不思議な動物たちのイラスト作品に加え、それらをモチーフにしたマスクや新作の服を展示します。遁走した動物たちがどこに潜んでいるのか、「夜の動物園」になぞらえたギャラリーで探してみてください。

【概要】

*本展は完全予約制です。予約方法、新型コロナウイルス感染症への対応についてはこちら：

https://www.kci.or.jp/information/2020/10/post_78.html

展覧会名：「This is not a cat.：夜の動物園」

会場：KCI ギャラリー

〒600-8864 京都市下京区七条御所ノ内南町 103 ワコール京都ビル 5F

電話 075-321-9221 (代表)

会期：2021年4月22日(木)ー7月30日(金)

開館時間：午前9時30分ー午後5時

休館日：土・日・祝

*新型コロナウイルス感染症対策のため、会期変更や休業の可能性があります。

入場料：無料

出展作品：高島一精による動物たちのイラスト約300点。動物たちをモチーフにしたドレスとマスク9点。

*KCI ギャラリーでは作品の販売は行っていません。

*ギャラリーは86m² (26坪) です。

【広報用画像】

出展作品画像、会場風景写真を用意しております。ご希望の際はお問合せください。



©Kazuaki Takashima



©京都服飾文化研究財団、福永一夫撮影

【お問合せ】

春田杏里 starman.a2019@gmail.com

京都服飾文化研究財団 学芸課 新居 (にい) nii@kci.or.jp